

科学技術に関する調査プロジェクト報告書3点を刊行しました
『極端気象の予測と防災』 『インフラ老朽化対策と維持管理技術』
『生体認証技術の動向と活用』

国立国会図書館調査及び立法考査局は、平成22(2010)年度から、科学技術政策上の重要課題を外部の専門家と連携して調査するプロジェクトを実施しています。

この度、平成30(2018)年度の科学技術に関する調査プロジェクトの一環として次のテーマについて、当館職員による調査や、大学の研究者等への委託によって、調査結果を取りまとめた報告書を刊行しました。

- ☞ 『極端気象の予測と防災』
- ☞ 『インフラ老朽化対策と維持管理技術』
- ☞ 『生体認証技術の動向と活用』

各報告書とも、テーマ分野の基礎的情報から関連する論点・課題まで幅広く調査し、正確な情報を基に、客観性・中立性に配慮した上で、分かりやすく取りまとめるよう努めました。各テーマにおける課題を理解する一助として是非ご活用ください。



■ 『極端気象の予測と防災』(調査資料 2018-4)

近年、豪雨や猛暑などの極端な気象の頻発やこれに伴う災害の激甚化が見られ、国民の生活や社会全般に大きな影響を及ぼしています。『極端気象の予測と防災』では、極端気象とは何かから始め、気候システムと地球温暖化や極端気象との関連、降雨の観測と予測技術について概観した後、防災の歴史的な経緯と現状を示し、防災教育、防災情報と住民避難、災害廃棄物に関する諸課題について考察しました。

■ 『インフラ老朽化対策と維持管理技術』（調査資料 2018-5）

1970年代前後の高度成長期に集中的に整備された道路や上下水道などの土木インフラや公共施設の老朽化が進み、国や地方公共団体にとって大きな課題となっています。『インフラ老朽化対策と維持管理技術』では、技術面・経済面・制度面・合意形成の4つの側面から現状を取りまとめた上で、インフラの種類ごとにどのように取り組むべきかを整理しました。

■ 『生体認証技術の動向と活用』（調査資料 2018-6）

生体認証技術とは、顔・指紋・虹彩や歩容・署名といった身体的・行動的な特性・特徴に基づいて、人物を自動的に確認・識別する技術を言います。この生体認証技術の利用に伴う新たなリスクに対し、ルールや監督体制の構築等が課題となっています。『生体認証技術の動向と活用』では、その技術動向や実用化の状況、諸外国の法規制等について整理した上で、我が国における今後の課題を明らかにするとともに、政策の方向性を考察しました。

■ 入手方法

国立国会図書館のホームページに PDF ファイルを掲載しています。

（トップページ> 国会関連情報> 『調査資料』> 2019年刊行分）

URL: <https://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/document/2019/index.html>

* 報道関係者には報告書1部をご提供します。ご希望の方は下記までお問い合わせください。

■ お問い合わせ先

国立国会図書館 総務部総務課広報係 電話：03-3506-5103（直通）

（参考）調査及び立法考査局の「立法調査サービス」

国会議員からの依頼に基づき、政治、経済、社会、文化、科学技術等広範な分野の国政課題について、事実確認のための調査から、論点整理、分析・評価まで、多岐にわたる調査を行います。また、現在・将来の国政課題について調査した成果を論文などにまとめ、国会議員に提供しているほか、国立国会図書館ホームページで公開しています。